

63

古記録にみる明治期の医療観と医療行動

—小寺家文書と信玄病院帳簿をてがかりに—

黒野 伸子¹⁾、大友 達也²⁾¹⁾ 岡崎女子短期大学 現代ビジネス学科, ²⁾ 就実短期大学 生活実践科学科

【はじめに】

筆者らは、文学作品に現れる医療関連の記述、歴史書、文書類を通して、現代に通じる疾病観、医療観、医療行動を明らかにしようとしている。3年間にわたり、古代文学作品にあらわれる病に関連する記述を精査した結果、病の扱いには当時の知識人の持つ疾病観、医療観が反映されていることが示唆された。本研究の過程で、明治期における医療関連文書閲覧の機会があり、当時の医療行動を明らかにするきっかけを得ることができた。本発表ではその一端を紹介し、今後の研究につなげたい。

【研究対象とした文書および研究目的・方法】

研究対象とした文書は以下の2点である。

小寺家文書（個人蔵）約9000点の古文書のうち、近代文書「5. 家族」に分類される文書群のなかに「(3) 衛生医療」に関連する文書がある^(※1)。そのうちの数点が患者に交付された明治期の「医療費明細書」、「領収書」、「入院中に発注した物品の明細書」であることが分かった。さらに、関東大震災で失われたと思われる製薬会社からの書状や医療伝承にまつわる文書等もあり、患者側からみた当時の医療行動が明らかになると思われる。

信玄病院^(※2)が明治期から大正期にかけて作成した各種帳簿（個人蔵）を閲覧し、本帳簿類が当時の詳細な診療記録であるとともに医療費に関する重要な史料であることを確認した。本病院は、東三河地域唯一の総合病院であり、遠方から多くの患者が来院している。本帳簿群は患者の地域ごとに別冊子となっており、地域医療の実態が明らかになると推測される。これらの文書は、すべて同時期に作成されたものであることから、文書類を比較検討することにより医療会計の流れが明らかになるとともに、明治期の医療行動解明の端緒となるであろう。本研究では、小寺家文書の「診療明細書」に関連すると思われる信玄病院「会計原簿」および診療記録を精査し、当時の医療行動を明らかにすることを主な目的とした。

【研究結果・考察】

1, 小寺家文書にみる医療行動

小寺家文書「(3) 衛生医療」に残る医療関連史料中、特筆すべきは、患者に交付された「診療明細書」が残っていたことである。本文書により明治期には患者中心の医療が行われていたことが示唆された。また、医療機関への受診のほか、現在の通信販売に相当する方法で売薬を相当数購入していたことも明らかとなった。資産階級であっても受診が最終手段であったことが推測される。

2, 信玄病院帳簿にみる地域医療の実態

明治20年代の「会計原簿」を精査した結果、診療内容、処方内容が詳細に記載されており、「診療明細書」の原簿とみてよいのではないかと、今後の調査を待たねばならないが、本病院でも領収証のほか、明細書を交付していた可能性は高い。さらに、本病院が高い医療技術を持ち、愛知県東三河地域の中心的な役割を果たしていたことが帳簿から読み取ることができた。

【おわりに】

岐阜県大垣市、愛知県新城市という比較的近い地域で見つかった史料を比較検討することで、明治期の医療行動の一部ではあるが明らかにすることができた。本研究から、古代より伝えられた疾病観、医療観の重層性を受け継ぎつつ、西洋医学を受け入れてきた医療行動の大きな流れを見ることができた。

今後も詳細な分析を引き続き行い、古代から近世の疾病観、医療観が現代における医療行動にどのような影響を与えているか、より深く考察していきたい。

※1：大垣市教育委員会・名古屋大学附属図書館編、石川寛編集『小寺家文書目録』の分類による。

※2：現愛知県新城市にあった総合病院である。現在は閉院している。

付記：本研究はJSPS 科研費17K04658による成果の一部である。